

V-2 国際経済研究会

最近の国際経済研究から：国・地域から産業・部門・企業・個人へ

塩谷 雅弘

1 本稿の目的

国際経済研究会の今年度の開催は7月と11月の2回であった(詳細は表1)。7月の第13回研究会では欧州銀行同盟の現状と問題点について佐藤(2018)をもとに議論し、そして11月の第14回研究会では経済的不安定の発生メカニズムについて平野(2018)をもとに議論した。本稿の目的は、佐藤(2018)や平野(2018)をはじめ、最近の国際経済研究の議論を整理し、特に国際経済研究の主な注目が国や地域の特徴から産業、部門、企業の特徴へと移ってきている状況を取り上げ、この状況における地域経済的な論点を指摘することである。

2 経済グローバル化の進展とその2つの効果

経済のグローバル化が著しく進んだ今日、複数の国を経て生産された財やサービスは国内外市場で消費され、また資本も国内外を問わず調達されそして運用されている。近年、一部の国で貿易収支不均衡から保護主義的な対応がとられ若干足踏みするが、依然として、経済は高くグローバル化している。こうした経済グローバル化の進展は、時には経済成長を加速させ、また時には経済危機を深刻化させるなど景気循環を増幅させる効果(サイクル効果)を持ち、そして国境を越えた経済の相互依存関係を強化する効果(スピルオーバー効果)を持つことが指摘されている(Helbling et al., 2007)。

3 国際貿易と国際金融

経済のグローバル化は国際貿易と国際資本移動の拡大を通じて進展するが、それらの拡大の過程は大変興味深い。まず、国際貿易の拡大については、グローバルな視点で生産、資金調達、そして販売を行うグローバル企業の活動拡大とともに起こっている。こうしたグローバル企業は近年急速に成長し企業規模を拡大させ、国家間貿易の重要な役割を占めるようになってきた。かつては、国家間の技術や生産要素賦存の違いから比較優位の違いが生じ、これが貿易の源泉であった。その後、規模の経済性に貿易利益の源泉をみつけた企業が大規模化や産業単位でのある地域における集約生産化を進め、国際貿易を活発化させた。さらに、その後、貿易利益の源泉として企業の高生産性が注目され、高生産性企業が輸出を拡大させ、さらに国全体で資源の再配分がすすみ国全体の生産性を向上させる。すなわち、貿易の源泉は、国、地域、産業、そして企業の異質性へと移ってきている。

最近ではフィンランドのノキアやコスタリカのインテルなどのように大規模なグローバル企業の活動が国の比較優位の決定に影響を与え(Gaubert and Itskhoki, 2018)、こうした大規模なグローバル企業は、生産拠点、輸出する市場・品目・量、そして中間財調達拠点・その輸入量といった複数選択を意思決定することによって、企業内および企業間での資源再

配分を行い、企業および国全体の産業構造を変化させ生産性を向上させているという見方もある (Bernard, et al., 2018)。

一方、国際資本移動に拡大については、一国のグロスの資本流入、流出双方で同時に急激に増加する傾向がある。国内の資金需要主体と資金供給主体が、資金調達（運用）先、調達（運用）金額、調達資本（運用資本）形態などの選択を意思決定しているようである。調達した流入資本は適切に利用すれば有益なものであるが、利用の仕方を誤れば大きな不利益につながる。資本流出入などの外的ショックに対する国内経済の脆弱性の程度は、国内の誰がどの程度資本を受入しているかに注目するのがよい。

近年、国際資本移動の状況は流出入資本の形態（直接投資、証券投資（株式、債券）、銀行ローンなど）だけでなく、受入部門（政府、銀行、企業など）も区別して公表されている。Avdjiev et al. (2017) によると、恐怖（VIX）指数が上昇するグローバル流動性の増大時には、銀行貸付の形態で先進国を中心に銀行と企業部門に流入するようである。また政府部門への流入は、銀行や企業など民間部門への流入とは異なり反景気循環的（countercyclical）であるようだ。信用増加の効果は、誰が信用を受けているかに依存する。Mian et al. (2017) は家計信用にはない企業信用の成長効果を主張するが、Cecchetti and Kharroubi (2018) は企業信用さえも一人当たり GDP 成長には負の影響を与えることがあると主張する。国内の家計か企業かどちらに銀行信用が向かうかには外国からの資本が誰に流入するかが影響するという見方もある (Sugimoto and Enya, 2018)。

このように、国際経済の主たる注目は、どこの国で何をどれだけ生産し、それらをどこで販売するか、生産に必要な中間財をどこからどれだけ輸入するか、そして生産工程のうちどの生産工程をどこにどれだけ移転させるか、また必要な資本はどこからどのような形態でどれだけ調達するか、といった経済主体の意思決定にある。主たる注目は、単に国家や地域間の経済取引という側面だけではなく、国内のどのような経済主体によるどのような意思決定の結果生じた経済取引であるかに移ってきている。国際経済問題における国や地域の役割は減ってしまったのであろうか。こうした国際経済問題の議論がどのような地域経済的な論点を持つのか、以下ではこの点を検討したい。

4 国際経済問題の地域的な論点

国際経済問題の議論における国や地域の役割について以下の点を指摘したい。第1は、生産拠点、輸出市場、中間財調達先、資金調達および運用先としての役割である。企業や経済主体にとってこれらは意思決定の対象となり、その選択如何で企業のパフォーマンスに大きな影響を受けることになる。第2は、経済の相互依存関係が及ぶ経済圏が拡大する可能性である。経済主体が様々な選択も相互に関係するため、スピルオーバー効果の増大を通じた経済圏の拡大が予想される。そして第3は、経済圏内における景気循環の増幅拡大の可能である。小さな企業の異質性から国際貿易がはじまり、そして貿易が資源再配分を経て生産性の上昇をもたらす可能性がある。生産性の上昇は平野 (2018) の条件が整えば経済は不安定

化し、大きな好況も不況も起こりうる。

このような状況に必要な政策対応はどのようなものか。経済主体のグローバルな視点からの意思決定を考慮しリスクの性質を明らかにした上で、経済不安定化を緩和するためのマクロプルーデンスなど適切な規制が有効となるであろう。

表 1 国際経済研究会（金沢大）開催実績（2018年度）

回	日付	曜日	時間	発表者	発表タイトル	共催
13	2018.7.26	木	13:30-15:00	佐藤秀樹 (金沢大)	European Banking Union (EBU) through Political Economy Approach: Features, Prospects and International Dimensions	【人経3】 【人融5】 【人経3】
14	2018.11.2	金	14:00-15:30	平野智裕 (東京大)	The Wobbly Economy	【人融5】 【他1】

出所：著者作成

注：場所は人間社会2号館5階第3会議室。発表者氏名の（ ）内は所属。共催研究会は以下のとおり。下の（ ）内は研究代表者。

【人経3】「経済システムの発展経路と国際的経済関係に関する比較研究（野村真理）」の研究会

【人融5】「グローバル経済下における地域システムの再編成、社会的リスク、および地域再生に関する研究（佐無田光）」の研究会

【他1】科研基盤C課題番号16K03673（加藤 篤行）の研究会

参考文献：

- Avdjiev, S., B. Hardy, S. Kalemlı-Ozcan, L. Servén (2017), “Gross Capital Flows by Banks, Corporates and Sovereigns,” *NBER Working Paper*, 23116.
- Bernard, A. B., J. B. Jensen, S. J. Redding, and P. K. Schott (2018), “Global Firms,” *Journal of Economic Literature*, 56(2), 565–619.
- Cecchetti, S. and E. Kharroubi (2018), “Why Does Credit Growth Crowd Out Real Economic Growth?,” *NBER Working Paper*, 25079.
- Helbling, T., P. Berezin, A. Kose, M. Kumhof., D. Laxton, and N. Spatafora (2007), “Decoupling the Train? Spillovers and Cycles in the Global Economy?” Chapter 4 of the April 2007 *World Economic Outlook*, International Monetary Fund.
- Mian, A. R., A. Sufi, and E. Verner (2017), “Household Debt and Business Cycles Worldwide,” *Quarterly Journal of Economics*, 132(4), pp.1755-1817.
- Sugimoto, K. and M. Enya (2018), “Global Liquidity and Reallocation of Domestic Credit,” Paper presented at the 16th International Convention of the East Asian Economic Association, in Taipei.
- 佐藤秀樹 (2018), “European Banking Union (EBU) through Political Economy Approach: Features, Prospects and International Dimensions,” 国際経済研究会報告, 金沢大学, 2018.7.26.
- 平野智裕 (2018), “The Wobbly Economy,” 国際経済研究会報告, 金沢大学, 2018.11.2.